

幼児教育における I C T 活用の展望

－ I C T を活用した保育実践に着目して－

Prospects for ICT use in childhood education －Focusing on childcare practices using ICT－

畑山 朗詠

Akie HATAYAMA

青森中央短期大学幼児保育学科

Department of Infant Education, Aomori Chuo Junior College

Key words ; 幼児教育、 I C T、 保育実践

1. はじめに

近年、幼児教育の現場において情報機器の活用が求められている。保育者養成校においては1998年に教育職員免許法の改正が行われ、幼稚園教諭免許を取得するために情報機器および教材の活用を含む科目が必修化された。2017年に文部科学省より公表された教職課程コアカリキュラム¹⁾では、教育の方法及び技術の到達目標の一つに、「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」と示され、保育者は日常の保育の中で情報機器を活用する力が求められている。

また、2017年告示の幼稚園教育要領²⁾では、「3 指導計画の作成上の留意事項」に「幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること。」と明示されており、情報機器の活用について触れられている。実際の活用例では、「園庭で見つけた虫をカメラで接写して肉眼では見えない体のつくりや動きを捉えたりすることで、直接的な体験だけでは得られない新たな気づきを得たり、自分たちで工夫してつくった音などを聴いて遊びを振り返ることで、体験で得られたものを整理したり、共有したりすることができるであろう。³⁾」と記載されており、幼児の直接的な体験を生かすために、パソコンやタブレット端末などの I C T 機器を工夫して活用していくことが必要だとされている。

だが、糟谷⁴⁾による、幼稚園・保育所・こども園における I C T 活用の現状調査によると、「登園・降園管理」や「指導計画、保育日誌など文書、報告書の作成支援」などを含む「園務の情報化」は90.3%と進んでいる一方で、保育実践における I C T 活用については、「積極的に活用したい」と答えた園が4.7%となっており、保育実践への I C T 活用は進んでいるとは言えない状況であること

を明らかにしている。その背景として森田⁵⁾は、直接的な体験を重視する保育現場においては、パソコン等の情報機器の利用に対する消極的な考え方が抱かれやすいことを指摘している。さらに、保育者養成機関などにおいてパソコン等を導入した保育の事例を積極的に伝え、理解の普及に努めることが今後さらに必要であると述べている。だが、幼児教育におけるICT活用の現状について報告されている研究はみられるものの、ICTを活用した保育実践について取り上げている研究は数少ない。

そこで本研究では、ICTを活用した保育実践についての文献をレビューすることを通して、今後どのように保育の現場でICTを活用していくことが望ましいのか検討することを目的とする。

II. 方法

CiNii（国立情報研究所学術情報ナビゲータ）を利用し、キーワードとして「幼児教育」「ICT」「実践」を入力し検索を行った。文献は論文を対象とし、その中で保育実践について取り上げているものを抽出したところ、5件が該当した。

III. 結果

(1) 主体的なかかわりを促す手段としてのICT活用

岩淵⁶⁾は、幼児教育におけるICT機器の研究を取り上げたうえで、ICT機器を遊びに積極的に活用している例が多くないことを指摘し、図鑑や科学絵本のように身近な自然の動植物の情報を入手する「さとやまたんけん」のシステム開発をして、幼稚園の5歳児を対象にタブレット端末を用いた「さとやまたんけん」遊びを実践した。その結果、カメラ機能の使用やQRコードの読み込みが対象園児でも可能であり楽しんで遊ぶ様子や、タブレットの操作に慣れている園児が慣れていない園児に教える行動を確認することができたとしている。また、園児たちは表示される写真に興味を持ちながら友達と会話を楽しみ、これまでの自分が経験してきた身近な体験をこの遊びに関連付けることで、自然遊びの補完的な遊びになったと述べている。

林ら⁷⁾は、幼稚園で行ったICTを活用した保育実践の内容と、それに関する保育者や子ども達のかかわりについて検討している。季節とのかかわりに関する実践では、子ども達が雛祭りについて知りたいと思ったことをタブレットで調べることから始まり、その後自分達で調べて分かったことを皆にも伝えたいという思いから、クイズを作る活動へと繋げた。子ども達の探求心から始まった調べるといった活動が、その後の制作活動への意欲付けになったと考察している。また行事における実践では、運動会に向けての話し合いに電子黒板を使用したことで子ども達の意欲やイメージがどんどん広がり、主体的な話し合いへと繋げることができたとしている。

(2) イメージを共有する手段としてのICT活用

渡邊ら⁸⁾は、園にあるiPadの画像をスクリーンに映し出して行う、園児による「プレゼンタイム」の実践について報告している。「プレゼンタイム」とは、その日担当となった園児が、保護者とともに選んだ写真を他の園児に見せながら写っているものの紹介をし、発表や質疑応答を楽しむ時間と紹介されている。大きな声ではっきりと写っているものの紹介を行うことや、発表した園児へ質問

をすることを通して、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることや、主体的に行動する力などが培われることを示唆している。

工藤⁹⁾は、保育現場におけるICT活用の現状について視察及び聞き取り調査を行っている。その中で、夏祭りでお餅やさんを開くことになった5歳児が、保育者と一緒に近隣のお餅やさんにデジタルカメラを持って取材にでかけた事例をあげている。そこで撮影した写真や動画を園のテレビに映しながら説明をしたことで、お餅やさんのイメージをクラスで共有することができ、材料や作り方など写真や動画をもとに考えて準備を進めることができたようである。

飯島・小森谷¹⁰⁾は、体験を重視する幼児期の学びの中で学習の基盤となるICT活用力をどのように育成するのか、幼児が日常的に体験できるような保育実践を行うことで、幼児教育におけるICT活用の可能性を考察している。その中で、子どもの様子を汲み取り、教師がタブレットの効果的な活用方法を提案した事例をあげ、野球遊びにおいて、幼児同士がバッティングフォームを動画で撮影した事例では、みんなで様子を見比べながらどうやったら遠くに飛ばせるか相談する機会が生まれ、協同的な活動につながったとしている。

IV. 考察

本稿は、ICTを活用した保育実践についての文献をレビューすることを通して、今後どのように保育の現場でICTを活用していくことが望ましいのか検討することを目的としていた。ICTを活用した保育実践について整理したところ、主体的なかわりを促す手段としてのICT活用と、イメージを共有する手段としてのICT活用に関するものであった。

主体的なかわりを促す手段としてのICT活用では、ICTを利用することで子ども達の興味や関心がさらに広がり、意欲的な活動への参加やその後の活動へとつながっていた。ICTを活用することで実際には目に見えないものや、出会えないもの、図鑑や辞典などでは知り得ないものに触れることができ、子ども達の主体的な学びにもつながっていたのではないかと考えられる。さらに、得られた情報をもとに保育者や友達とやりとりをしたり、これまでの活動やその後の活動へとつなげていた様子から、主体的・対話的で深い学びが実現されていたことが推察される。

イメージを共有する手段としてのICT活用では、主に写真や動画を保育者や子どもたち同士で共有し活動が展開されていた。写真があることで、言葉だけでは伝えることが難しい場合でもその時の具体的なイメージを伝えることができたり、動画を利用することで、一度見たものを繰り返し確認することができたりする。このように、ICTを活用することによって伝えたいことが相手に伝わりやすくなり、話し合いや相談などをする際に役立ち、子ども達同士の理解や共感が得られやすくなるのではないかと考えられる。

以上のことから、今後どのように保育の現場でICTを活用していくことが望ましいのか考察したい。

一つ目は、ICTを活用する際の保育者の働きかけについてである。ICT機器がただ置かれていた場合、子ども達だけでも使用することは可能だが、ICT機器を使うこと自体が目的となってしまう。あくまで直接的な体験との関連を念頭に置く必要がある。亀山は¹¹⁾、ICTを活用した幼児教育では、「直接体験→ICT→直接体験」という経験を繰り返していくことが重要と述べている

が、保育者はどんな目的でICTを使用し、子ども達にどう提供していくのか、どう働きかけていくのかをしっかりと考えながら活用していくことが求められる。

二つ目は、非認知能力の育成も視野に入れたICTの活用である。どの事例も、直接的な体験を補完するためにICTが活用されていたが、目標達成のために他者と協同する姿や、活動をとおして自分に自信をもつ姿が見て取れた。子どものICT活用効果として、主体性、協同性、遊びの展開意欲や態度、新たな発想や深い学び、柔軟な思考、豊かな表現力を発揮することが考えられ¹²⁾ているように、ICTの活用は、直接的な体験を補完するためだけでなく、非認知能力の育成にもつながるのではないかと考えられる。保育者はそれを念頭におき、しっかりとしたねらいをもってICTを活用した保育活動の展開や環境構成を考えること、ねらいに基づいた使い方ができるよう指導や援助をしていくことが必要であると考えられる。

本稿では、ICTを活用した保育実践について5件の文献を参考にした。保育実践におけるICTの活用については未だ難航している状況ではあるが、保育現場での望ましい活用方法を考える上でさらに事例を収集する必要があるため、今後の課題としたい。

引用文献

- 1) 文部科学省 (2017) 「教職課程コアカリキュラム」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/houkoku/1398442.htm
- 2) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領.
- 3) 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説. フレーベル館.
- 4) 糟谷咲子 (2019) 幼児教育・保育施設における情報化の現状と課題についての一考察. 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要, 51,41-56.
- 5) 森田健宏 (2002) 保育所におけるパソコン利用に対する保育士の抱く問題点の検討. 日本教育工学雑誌, 26(2),87-94.
- 6) 岩渕喜美 (2020) 幼児教育におけるICT機器を活用した子どもの遊び－身近な自然の動植物図鑑のシステム開発とタブレットを用いた遊びの実践－. 平安女学院大学研究年報, 20,43-52.
- 7) 林美代・平尾美香・小藤聖佳・廣瀬三枝子 (2021) 幼稚園におけるICTを活用した保育実践. 香川短期大学紀要／香川短期大学編, 49,167-175.
- 8) 渡邊景子・杉本正和・角田雅仁 (2017) 幼児・初等教育におけるICTを活用したキャリア教育の成果と課題. 情報教育シンポジウム論文集, (37),225-230.
- 9) 工藤ゆかり (2022) ICTを活用した幼児教育の方法. 北翔大学教育文化学部研究紀要, 7,281-290.
- 10) 飯島典子・小森谷一郎 (2022) 遊びを通じたICT活用力を育む幼児教育の実践. 日本教育大学協会研究年報／日本教育大学協会年報編集委員会編, 40,61-72.
- 11) 亀山秀郎 (2022) 発達170, 保育の場で育まれる非認知能力－園内環境の工夫とICT活用の視点から－. ミネルヴァ書房.
- 12) 廣瀬三枝子・藤村裕一 (2021) 幼児期の直接的な体験を補完・促進・充実させるICT活用教育の在り方. 日本教育工学会研究報告集, 2,152-157.